

論文 | Articles

松本隆の歌詞の使用単語についての計量テキスト分析

Quantitative Text Analysis

About Lyrics Written by Takashi Matsumoto

定村 薫

SADAMURA, Kaoru

尚美学園大学

総合政策学部非常勤講師

Shobi University

2019年9月

Sep.2019

松本隆の歌詞の使用単語についての 計量テキスト分析

Quantitative Text Analysis About Lyrics Written by Takashi Matsumoto

定村 薫
SADAMURA, Kaoru

[要約]

本研究は、日本を代表する作詞家のひとりである松本隆の作詞した楽曲の歌詞を分析する。松本隆はそれまでの歌謡曲の歌詞の概念を大きく変える斬新な歌詞を発表し、後進の作詞家やシンガーソングライターにも大きな影響を与えている。本研究では歌詞に使用される単語の頻度から、松本隆の歌詞の特徴を他の作詞家との比較によって数的に捉えることを目的とする。

キーワード

計量テキスト分析、歌詞、KHCoder

[Abstract]

This paper is analyzing lyrics of the songs written by Takashi Matsumoto, one of Japan's leading songwriters. He has released innovative lyrics that greatly change the concept of lyrics and has had a great influence on younger lyricists and singer-songwriters. This paper gives the characteristics of Takashi Matsumoto lyrics by comparison with other writers from frequency of words used in the lyrics.

Keywords:

quantitative text analysis, lyrics, KHCoder

はじめに

本稿の目的は、日本を代表する作詞家松本隆の歌詞の特徴を、その使用単語の頻度等によって計量言語学的に分析し、さらにそれ以前の作詞家や以後の作詞家と比較することによって、松本隆が作詞界全体に及ぼした影響について考えることにある。計量言語学による文章解析としては、これまで様々な分析手法が試みられてきたが、本稿では計量的手法を歌詞という形態の文章に適用する場合どのような方法が良いのかを考慮した結果、単語をいくつかのグループに分類して集計するという方法を試みる。

1. 関連研究

言語を統計的な手法で研究する学問として、計量言語学という分野がある。伊藤雅光(2002)によると、計量言語学とは

「統計的な手法をもちいて言語や言語行動の量的側面を研究する学問分野」

である。伊藤氏はこの計量言語学アプローチを歌詞の分析に適用し、伊藤雅光(1997)(2001)等の研究を行っている。

一方、樋口耕一は文章の量的分析を計量テキスト分析とよび、その研究対象として、小説、新聞記事、社会調査の結果等様々なものを取り上げている。樋口耕一(2014)では、計量テキスト分析には次の異なる2つのアプローチがあると述べている。

- ①分析者が作成した基準によって言葉や文書を分類するためにコンピュータを用いるアプローチ
- ②同じ文書の中によく一緒にあらわれる言葉のグループや、共通する言葉を多く含む文書のグループを、多変量解析によって自動的に発見・分類するためにコンピュータを用いるアプローチ

樋口耕一(2014)ではこの2つのアプローチのメリット、デメリットを次のように述べている。

「①のアプローチは、分析者の理論や仮説にとって都合の良いコーディングルールばかり作成されてしまう危険性があるが、②のアプローチは、多変量解析に依存するために研究者の発想・観点のすべてに対応することはできない」

そこでこの2つのアプローチを接合するために、樋口耕一によって考え出されたフリーソフトがKHCoderである。これは②の手法をベースにしながらコーディングルールファイルの使用(樋口耕一(2014)を参照)により、①のアプローチを取り入れることができるソフトとして、現在多くの分析に使われている。

計量テキスト分析の手法を歌詞に適用した研究は、近年かなりの数にのぼる。KHCoderを使用した研究例としては池澤和希・浦谷則好(2015)、大出彩・松本文子・金子貴昭(2013)があげられるが、ここではKHCoderの共起ネットワーク、対応分析といった分析手法が用いられている。その他、手法の簡単性から数多くの卒論等でこのソフトが用いられている。

歌詞の研究は分析対象によって分類される。大きく分けると、

- ①特定のアーティストにしばった分析
- ②多数の作詞家、アーティストのデータを集めた、時代の経過による歌詞の変遷の分析の2通りである。①については富永愛(2015)等、②については池澤和希・浦谷則好(2015)、大出彩・松本文子・金子貴昭(2013)、細谷舞・鈴木崇史(2010)等があげられる。

2. 松本隆について

2.1 略歴

松本隆は1970年、大瀧詠一、細野晴臣、鈴木茂とともにロックバンド「はっぴいえんど」にドラマーとして参加、ほとんどの曲の作詞を手がける。当時、本格的なロックバン

ドでは英語詞が当たり前とされていたため、はっぴいえんどの出現により、日本語ロック論争なるものが起こった。そんな中、彼らの日本語とロックの融合という実験的試みが音楽業界では評価され、特にセカンド・アルバム「風街ろまん」は売上がふるわなかったにもかかわらず、今日においても「日本のロック名盤」アンケート等では常に上位にランクされている。

「はっぴいえんど」解散後、他のメンバーがミュージシャン、作曲家といった方向に進んでいく一方で、松本隆は1973年発売のチューリップの「夏色のおもいで」を皮切りに、専業作詞家としての道を歩み、松田聖子の多くの作品や「木綿のハンカチーフ」「ルビーの指輪」など数々のヒット曲の作詞を手がけている。大滝詠一、松任谷由実、筒美京平、細野晴臣等多数の作曲家とコンビを組んでいる。

2.2 作品の特徴

松本隆の歌詞の特徴はその文学性にあり、特に大きな特徴として、比喩的表現の多用があげられる。

はっぴいえんどのアルバム「風街ろまん」のタイトルからもわかるように、自然や街の情景描写によって物語を描いていく手法は、それまでの作詞家にはなかったものといえる。本稿では松本隆が詞を提供した歌手によって語句の使い方がどのように異なるか、また他の作詞家とどのような違いがあるのか等を、単語の頻度を計量的に分析することによって調べる。

3. 分析手法

3.1 分析手法の選択

本稿の分析にあたって事前に行った予備調査においては、EXCELを使った手作業による集計を行った。それは機械的な分析より、人間による様々な判断が逐次行えるからである。しかしある程度経験による蓄積を経た状況においてはKHCoderの使用が可能であると判断し、KHCoderを使用することにした。KHCoderの詳細については樋口耕一（2014）を参照した。

KHCoderにおける分析手法において、広く使用されているものとして次のようなものがあげられる。

① 共起ネットワーク

データ中使用頻度の高い単語を抽出し、それらの単語間の結びつきをグラフ化する。単語同士の結びつきがわかることに加えて、結果を視覚的にとらえることができるため、分析結果の概観を見るのに適しているが、本稿では予備調査段階での使用にとどめているため、本文には使用していない。

② 対応分析

歌詞に使用されている語句と、歌手名等の分類を一緒に2次元のグラフ内にプロットする。本稿では5章の作詞家による比較に使用している。(図3)

③ コーディングによるクロス集計

歌詞に使用されている語句を「自然」「都市」「心情」等に分類し、例えば歌手別、作詞

家別の使用頻度を比較する。本稿における中心的な分析手法であり、4章、5章で使用している。

④ 関連語検索

単語を1つ（例えば「風」等）指定して、その前後の文を表示させる。本稿では5.3で使用している。

3.2 データ集計法

本稿では前節の「③コーディングによるクロス集計」が中心的に用いられているため、その方法について説明する。

まず、テキストファイルに歌詞を入力する。そのさい作詞者名、歌手名、楽曲名にタグ<h1><h2><h3>を付けて階層構造を作る。次に単語をいくつかのグループに分類し、コーディングルールファイルを作成する。そのルールによって作詞家別あるいはアーティスト別に、各単語グループの頻度が得られる。

コーディング・クロス集計では、コーディング単位を設定する必要がある。これは1曲を1つの単位にする（すなわち1曲の中で1回でも使用されれば1とカウントする）か、あるいは1行を1つの単位とするかの選択である。小説等の分析においては段落ごとの集計が行われることが多いが、歌詞の場合、1行の長さが曲によってまちまちであったり、リフレインが何回存在するかにより集計結果が影響を受けやすいため、ここでは曲ごとの集計とした。

コーディングルールを用いた分析としてはこれまでも大出彩・松本文子・金子貴昭（2013）等があるが、本稿では松本隆の特性を探るという目的にそって、これまでの研究では使用されていないコーディングルールを多数含めて分析する。ここでは情景・心情、時間、花等の名前、動詞の4種類に分類したうえで、各々の分類について表1～表4に示すような複数のコーディングルールを作成した。例えば表1の1行目は「光」「花」「風」等のどれかの単語が1つでも出現したとき、「自然」が1つカウントされるという意味である。

表1 コーディングルール（情景・心情）

自然	光、花、風、星、空、雨、海、山、川、河、丘、雪、渚、波
都市	街、町、街角、道、道路
心情	思い出、想い出、思い出す、夢、心、こころ、気持ち
ウエット	悲しい、哀しい、悲しみ、哀しみ、悲しむ、哀しむ、涙、泣く
恋愛	好き、愛、愛す、愛する、愛せる、愛し合える、恋、恋しい

表2 コーディングルール（時間）

時間	時、時間
朝・夜	朝、夜
昨日・今日・明日	昨日、今日、明日
季節	春、夏、秋、冬

表3 コーディングルール（花等の名前）

乗り物	電車、汽車、列車、トレイン、車、自動車・・・
服	セーター、スカート、シャツ・・・
花	桜、さくら、サクラ、ばら、バラ・・・
体	頭、口、くちびる、顔、耳、目、眼、瞳・・・
色	白、白い、黒、黒い、赤、赤い、紅い・・・

(注：詳しくはappendix 1を参照)

表4 コーディングルール（動詞）

行動	歩く、走る、来る、行く
見る聞く言う	見る、聞く、聴く、言う

一部の語句については、あらかじめテキストに修正を加えることで制限を加えている。例えば「時」については「その時」「した時」等はすべて「そのとき」「したとき」等に変更しておき、「時」の分類から除外されるようにした。

4. 松本隆作品内の比較

4.1 はっぴいえんどと専業作詞家転身後の比較

松本隆作品の「はっぴいえんど」時代と専業作詞家時代の比較をする。はっぴいえんどについては歌ネットから極端に歌詞の少ない曲、朗読のみの曲等（「愛飢を」、「あやか市の動物園」、「はいからはくち」、「はっぴいえんど」、「続はっぴいえんど」）をのぞいた18曲を、後者については男性歌手、女性歌手ともに歌ネットの2019年2月22日現在の人気上位曲をデータとして使用した。分析手法としては、KHCoderのコーディングークロス集計を用いた。

コーディングルール（情景・心情）についてのクロス集計の結果を表5に示す。集計は曲単位で行った。ここでケース数はそれぞれの歌手についての分析に用いた曲数、カイ2乗値は各列ごとに求めた。（カイ2乗検定の詳細についてはappendix 2に示す）それ以外の数値はそれぞれの分類に含まれる単語を曲数で割ったパーセント値である。

表5 はっぴいえんど、女性歌手、男性歌手の比較（情景・心情）（単位%）

	*自然	*都市	*心情	*ウエット	*恋愛	ケース数
はっぴいえんど	88.89	44.44	22.22	11.11	0.00	18
男性歌手	71.01	26.09	65.22	59.42	60.87	69
女性歌手	74.49	29.59	67.35	41.84	74.49	98
カイ2乗値	2.408	2.305	13.602**	14.511**	35.952**	

(注) カイ2乗値の*は5%有意、**は1%有意。

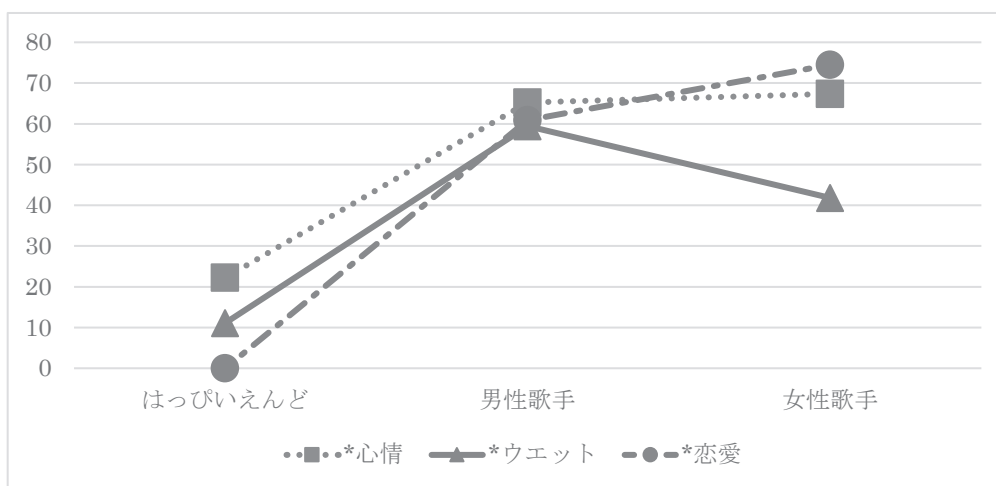


図1 情景・心情（有意差がある項目）（単位%以下も同様）

初期にあたるはっぴいえんどでは、「恋愛」が全く使われていないが、これは様々な作詞家の歌詞の中において、はっぴいえんどのみに見られる特異な結果である。実際、テーマ自体が恋愛以外である曲も多数存在する。また、「ウエット」「心情」も極端に少ない。これら心情を表わす単語グループで有意差が出ていて、いずれもはっぴいえんどが少なく、それ以外が多くなっている。

一方、「自然」、「都市」は、はっぴいえんどが高頻度になっているが、有意差は出ていない。

はっぴいえんどから職業作詞家になる過程で心情を表す言葉を増やした一方で、情景を表す言葉の頻度は若干減ったものの大きく減らしてはいないことがわかる。

表6 時間に関する項目（単位%）

	*時間	*朝夜	*昨日今日明日	*季節
はっぴいえんど	5.56	22.22	5.56	44.44
男性歌手	23.19	18.84	17.39	26.09
女性歌手	18.37	10.20	21.43	25.51
カイ2乗値	2.935	3.354	2.626	2.851

時間に関する項目についてはいずれも有意差が出ていない。

表7 花等の名前（単位%）

	*乗り物	*服	*花	*体	*色
はっぴいえんど	16.67	5.56	5.56	33.33	44.44
男性歌手	37.68	17.39	8.70	84.06	44.93
女性歌手	36.73	18.37	21.43	80.61	46.94
カイ2乗値	3.000	1.821	6.536*	22.236**	0.084

ここでは「花」と「体」について有意差が出ている。体についてははっぴいえんどと男

性歌手・女性歌手の間に大きな差があるが、花については女性歌手のみ高頻度になっている。

表8 動詞（単位%）

	*行動	*見聞言
はっぴいえんど	16.67	27.78
松本隆男性	37.68	59.42
松本隆女性	45.92	59.18
カイ2乗値	5.668	6.553*

動詞については「見る聞く言う」で有意差が出ている。

以上の結果をまとめると、はっぴいえんどから職業作詞家に移行する過程で

- ①「心情」「ウエット」「恋愛」「体」「見聞言」の各グループの単語が増加している。
- ②「花の名」については女性歌手のみ高頻度。
- ③「花の名」以外男女間の差はあまりない。

ということがわかる。

4.2 歌手による違い

次に、詞を提供した歌手によって使用語句がどう違うかを調べる。松本隆が多くの詞を提供した太田裕美、松田聖子、薬師丸ひろ子、斉藤由貴の4歌手（歌手デビュー順）について比較をする。ヒット曲に限定すると曲数が少なくなる、またこれらの歌手についてはヒット曲だけでなくアルバム曲も含めたトータルなイメージを作るような方向で曲作りが進められていたこともあるため、アルバムのみに収録された曲も含める必要がある。そこで、松田聖子についてはアイドル期に制作された「風立ちぬ」（1981）「パイナップル」（1982）「Candy」（1982）「ユートピア」（1983）「Canary」（1983）の5枚のアルバム収録の全曲を対象とし、太田裕美については「まごころ」（1975）「短編集」（1975）「心が風邪をひいた日」（1975）「手作りの画集」（1976）「12ページの詩集」（1976）「こけていっしゅ」（1977）「背中合わせのランデブー」（1978）「ELEGANCE」（1978）の8枚のアルバムの楽曲で歌ネット等から検索可能な曲を、薬師丸ひろ子、斉藤由貴については検索可能な全曲を対象とした。なお、4.1における分析とは対象曲が異なるため、結果として得られる数値も異なる。

表9に情景・心情グループの項目についての結果を示す。

表9 4女性歌手（情景・心情）（単位%）

	*自然	*都市	*心情	*ウエット	*恋愛	ケース数
太田裕美	72.60	41.10	80.82	60.27	68.49	73
松田聖子	67.35	34.69	46.94	22.45	61.22	49
薬師丸ひろ子	90.91	36.36	90.91	27.27	90.91	11
斉藤由貴	66.67	22.22	88.89	44.44	44.44	9
カイ2乗値	2.606	1.471	20.454**	18.357**	5.619	

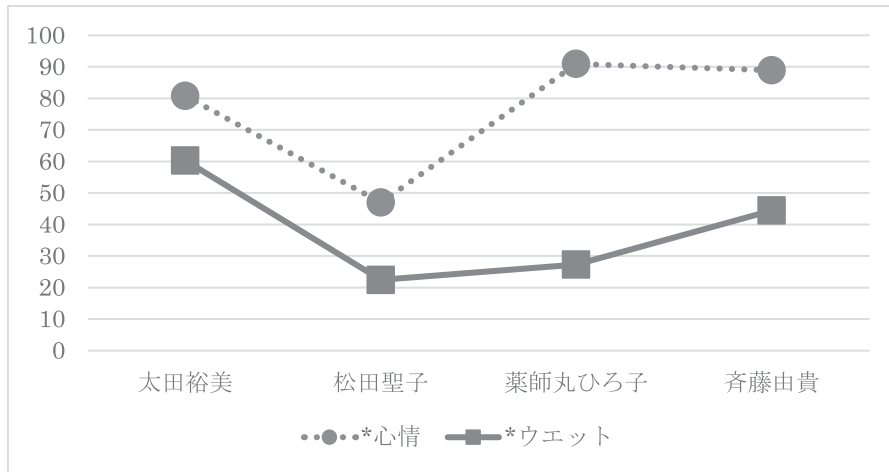


図2 4女性歌手の比較：情景・心情（有意差が出た項目）

有意差が出た項目は「心情」「ウエット」で、「心情」では松田聖子が際立って低頻度、「ウエット」では松田聖子、薬師丸ひろ子が低頻度になっている。すなわち松田聖子の作詞をするうえで、意識的に感情をストレートに表す単語を少なくした可能性が考えられる。松本隆は当時、女性アイドルに対してそれまでのアイドルとは異なる詞の世界を作ろうと試みていたが、特に松田聖子によってそれが実行に移されたようである。

表10は単語別の頻度比較であるが、単語別にみると松田聖子は「心」が有意に低頻度になっている。また、「時」という言葉は薬師丸ひろ子のみ高頻度になっているが、歌手に合わせて言葉使いを変化させていることが読み取れる。

表10 4女性歌手 単語別（単位%）

	*心	*時
太田裕美	64.38	4.11
松田聖子	30.61	10.20
薬師丸ひろ子	90.91	27.27
斉藤由貴	77.78	0.00
カイ2乗値	22.027**	8.390*

5. 他の作詞家との比較

5.1 単語グループの頻度比較

次に、他の作詞家との比較を行った。ここでは松本隆以前からヒットメーカーだった阿久悠、逆に松本隆の後ヒットメーカーとなった秋元康との比較を行う。ここで問題になるのは、歌詞は楽曲のジャンルによって影響を受けるという点である。例えば阿久悠の作曲には演歌系が含まれるが、松本隆については、そのほとんどの楽曲が非演歌系である。また、提供歌手の年齢構成も異なる。このため、比較対象を合わせるという観点から若手

女性歌手に絞って集計した。

阿久悠については岩崎宏美、桜田淳子、伊藤咲子、石野真子の楽曲を（ピンクレディについては状況設定等が普通のアイドルと異なるため除外した）、松本隆については前節の4人を、秋元康についてはAKB48、欅坂46、乃木坂46の楽曲を対象とした。曲の選定基準は阿久悠については歌ネットの2019年2月27日現在の人気上位曲、秋元康については2019年2月28日現在の人気上位曲とした。

まず、おおまかな傾向を知るために、対応分析を行なった。図3の結果は上記の11歌手（グループ）について配置したものだが、これを見ると、阿久悠作詞歌手は第2限から第1象限（すなわち縦軸プラス）に、松本隆作詞歌手のすべてが第3象限に、秋元康作詞歌手は第4象限から第1象限（すなわち横軸プラス）に配置されており、比較的是っきりと分離されている。

阿久悠については「愛」「好き」など恋愛ワードが近距離に存在するのに対して、松本隆は「風」「雨」など情景を表す単語が近距離に存在することがわかる。また、秋元康については「世界」「夢」等の抽象的な単語、「行く」等の行動を表す動詞、「今」「今日」等の現在を表す時間表現が多く存在する。

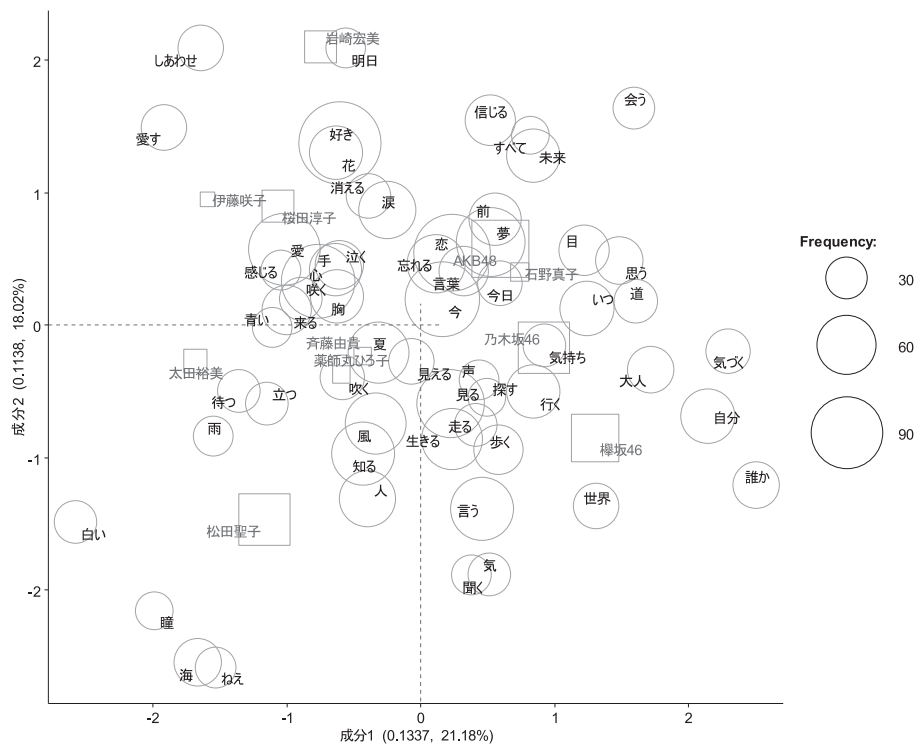


図3 対応分析（歌手別）

次に、前節と同様のクロス集計を行なった。表11は前述の分類の最初の5項目を集計したものである。これよりわかることは、阿久悠—松本隆—秋元康の順に単調増加あるいは単調減少している単語グループと、松本隆のみ多出あるいは少出している単語グループの2通りがあるということである。

表11 作詞家による比較：情景・心情（単位%）

	*自然	*都市	*心情	*ウエット	*恋愛	ケース数
阿久悠	44.19	2.33	62.79	51.16	83.72	43
松本隆	82.46	35.09	64.91	38.6	63.16	57
秋元康	72.31	36.92	87.69	46.15	72.31	65
カイ2乗値	17.358**	18.299**	11.345**	1.639	5.156	

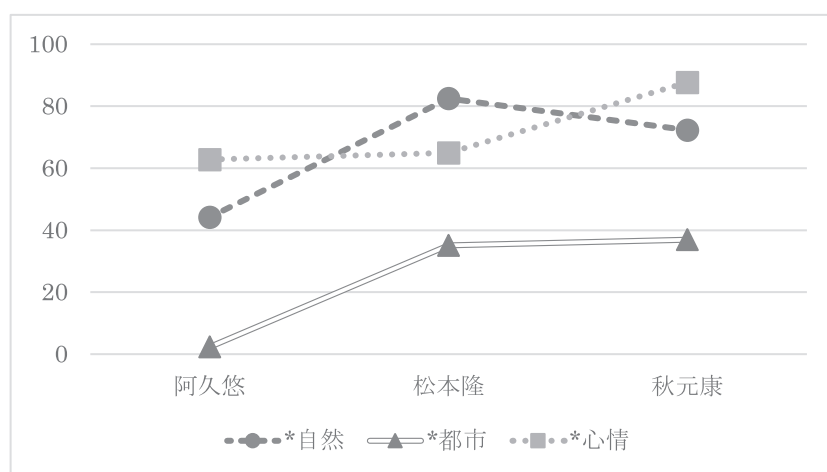


図4 作詞家による比較：情景・心情（有意差がある項目）

3人の活躍期にはかなりの重複があるものの、ある程度阿久悠→松本隆→秋元康という時間的な流れがあるため、折れ線グラフの横軸を時間とみなして良いだろう。図4より、「自然」は松本隆が山の頂点であり、「都市」は松本隆により使用頻度が増え、その後秋元康に受け継がれた傾向であるということを示している。また、「心情」に関しては阿久悠—松本隆間には大きな差がなく秋元康で増加している。

表12 作詞家による比較（時間）（単位%）

	*時間	*朝夜	*昨日今日明日	*季節
阿久悠	4.65	13.95	18.60	20.93
松本隆	21.05	12.28	21.05	26.32
秋元康	18.46	10.77	38.46	36.92
カイ2乗値	5.558	0.248	6.843*	3.534

「昨日今日明日」については阿久悠→松本隆→秋元康で増加、「時間」については松本隆がもっとも高頻度になっている。また、阿久悠と松本隆のみの比較では、5%の有意差が出ていて（カイ2乗値4.199）、「時」「時間」という単語が阿久悠から松本隆へ大きく増加していることがわかる。

表13 作詞家による比較（花等の名前）（単位%）

	*乗り物	*服	*花	*体	*色
阿久悠	2.33	6.98	11.63	67.44	46.51
松本隆	42.11	17.54	29.82	77.19	54.39
秋元康	18.46	12.31	16.92	75.38	21.54
カイ2乗値	23.264**	2.481	5.707	1.326	14.958**

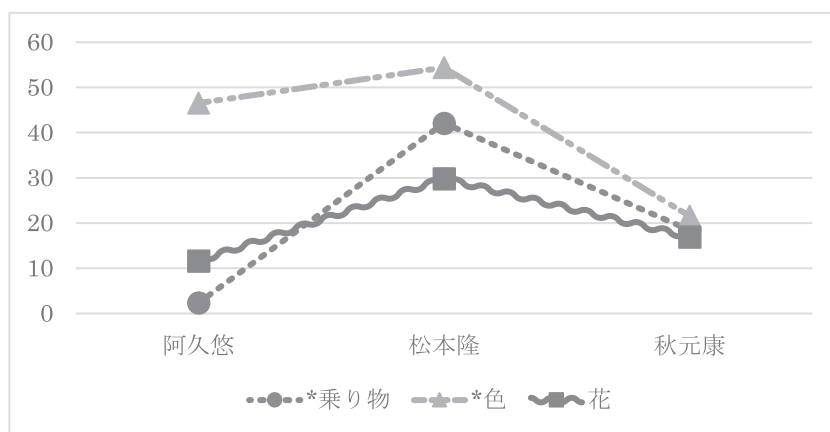


図5 作詞家による比較：花等の名前（有意差が出た項目他）

5%有意な「乗り物」「色」と5%有意ではないものの比較的差異が見られた（10%有意）「花」について図5に示す。いずれについても松本隆のみ高頻度な項目といえる。松本隆の歌詞にはバス、自転車などの乗り物の種類、白や赤などの色名、花の名前といった具体的表現が多いことがわかる。

次に動詞についての比較を表14に示す。

表14 作詞家による比較（動詞）（単位%）

	*行動	*見聞言
阿久悠	20.93	20.93
松本隆	52.63	59.65
秋元康	66.15	73.85
カイ2乗値	21.472**	30.009**

動詞については阿久悠—松本隆—秋元康と増えている。松本隆の特性というよりは時代による変化を表している可能性が高い。

まとめると、松本隆が他の2人より高頻度な項目は「自然」や「乗り物」「色」などの具体的な名称であり、いずれも情景描写に使われる要素である。すなわち、松本隆の歌詞の特徴は感情的なものをストレートには表現せず、乗り物などを具体的に織り込んだ情景描写によって間接的に表現しているということがいえる。

歌謡詞の時代推移という観点からすると、この結果からは次の事が推測される。松本隆以前の歌謡詞にはあまり出現しなかった「自然」や「都市」が松本隆によって高頻度で使用され、その傾向は後の歌謡詞にそのまま定着した。一方で、「乗り物」（バス、自転車等）「花」「色」といった具体名の多使用は松本隆特有のものである。

5.2 単語出現頻度の比較

1つの単語をそのままコーディングしていけば、各単語について前節と同様の分析が行える。ただし、例えば「街」と「町」、「今」と「いま」等は同一のコード「街」、「今」として扱う。一般的によく使われる下記の名詞について比較した。

表15 単語度数比較（単位%）

	*風	*海	*街	*夢	*今
阿久悠	13.95	0	2.33	23.26	27.91
松本隆	24.56	28.07	26.32	17.54	31.58
秋元康	34.33	10.45	5.97	49.25	56.72
カイ2乗値	5.751	17.304**	9.472**	15.600**	12**

5%以上の有意差が出た単語は「海」「街」「夢」「今」であるが、この中で松本隆が3人の中で最高頻度の単語は「海」「街」である。松本隆のキーワードのひとつである「街」が高頻度単語になっていることは注目される。一方、「風」については有意差が出ていないが、阿久悠との比較では頻度がかなり増加している。

5.3 関連単語の比較

前節では単語の出現頻度を比較したが、ここでは、特定の単語と関連する他の単語について比較をする。まず、松本隆のキーワードともいえる「風」について阿久悠、秋元康と比較する。前節の出現頻度集計では「風」の出現率は秋元康が高かったが、「風」という単語の使用法に違いがあるのではないかということ、関連語検索を用いて調べてみる。

ここで、単に「風」の前後の単語を調べるのではなく、風の後ろの単語については「風の」「風に」「風を」「風が」「風は」のそれぞれについて、分類したうえで集計した。また、風の前の単語については名詞の場合についてのみ集計した。

表16 「風」の関連語

	阿久悠	松本隆	秋元康
風の・・・	言葉	インク 中 音 絵の具	中 向き 向こう
風に・・・	なびく 吹かれて さらし たくす ゆれて	吹かれて 張り付いた ほどく まかせて なる	吹かれて 膨らんでる 舞う 乗って 運ばれ なれ 耳をふさぐ
風を・・・		切る	追いかける
風が・・・	ささやく 吹く	ふるわせる 吹き抜ける	吹く 止んで 消えた 膨らませる
風は・・・		ヴァイオリン	通り過ぎて 止んだ 吹いている 語りかける ため息
名詞～風		答 (は) 常夏色 (の) 言葉 (は)	明日 (の) 春 (の)

関連語を見ると、阿久悠、秋元康の場合は「吹く」など直接「風」と関連する語が多いのに対して、松本隆の場合、名詞との結びつきが数多く見られる。直接的表現以外に「風のインク」「風の音」「言葉は風になる」「風の絵の具」といった比喩的表現にも「風」が使われていることが示されており、松本隆の「風」へのこだわりがよくわかる。

次に「時」について比較する。

表17 「時」の関連語

	阿久悠	松本隆	秋元康
時の・・・	流れ スローモーション	見えない 河 流れ 電車 船	針
時は・・・		逃げない 忍び足で横切る	流れて
時が・・・	移り変わる	来る 消した	過ぎて 来て

一般的には「時」は「流れる」あるいは「過ぎる」ものであるが、ここでも松本隆の「時の河」「時は忍び足で」といった比喩的表現が見られる。これらの多くは薬師丸ひろ子に提供した作品である。

次に3人共高頻度で使用している「心」について調べてみる。ここでは特に名詞とのつながりが特徴的な結果になっているので、関連語が名詞の場合についてリストを作って比較する。

表18 「心」の関連語（名詞のみ）

	阿久悠	松本隆	秋元康
心の・・・	糸 鍵	旅人 岸辺 弦 扉 ドラム あばら家	隣 葉 窓 空 独り言 ページ 道
心は・・・		砂時計 ダイヤモンド	格子柄

阿久悠、秋元康と比較すると、松本隆は「岸辺」「砂時計」など実に多彩な単語が使用されている。具体的なイメージを持つが「心」自体とは直接結びつかない単語が関連語になっていて、かなり異色な言葉遣いであることがわかる。

6. おわりに

(1) まとめ

松本隆の詞の特徴は「自然」「都市」を表す単語の頻度が高いということ、また、花や乗り物や色などの名前を具体的に使用していることである。それだけ情景描写が多いとい

うことである。その分「恋愛」「ウエット」が少ないわけだが、情景描写によって感情を表現するという手法を詞の世界に導入したためであると考えられる。4.1に示したように「自然」「都市」が高頻度であるというのは、はっぴいえんどの特徴であったが、アイドル等の歌謡曲の作詞においても、この傾向が継承されていることがわかった。

本稿では歌詞の引用は行っていない。これは意図的なもので、歌詞という文学的表現をどこまで数字のみで分析できるのかということが、興味のひとつであった。その意味で、情景描写による間接的な表現という松本隆の詞の特徴が数字のみによって解明されたことで、一定の成果が得られたと思う。

(2) 分析手法について

分析手法の問題点としては、まず、コーディングにおける単語グループの分類法の妥当性ということがあげられる。本稿の分類はその試みのひとつということで、今後さらに考慮していかなければならないだろう。次に、データの選択であるが、作詞家の比較の場合、20～30代の女性歌手といったように比較対象を合わせる事が非常に難しいということがあげられる。

本稿では度数比較という数的な分析によって、いくつかのことが明らかにされたが、5.3の関連語分析では、数字のみでは解明されない結果も得られた。これは数字の分析だけでは歌詞分析は不十分であることも示しており、対象となる音楽に関する知識を必要とした判断も、ある部分では必要であるということが示唆されていると思う。今後、この両面の分析をどのように組み合わせていけばよいのか、考慮していかなければならない。

(3) 今後の展望

本稿では松本隆との比較の対象として、阿久悠と秋元康を取り上げたが、時代性に言及するためには、他の作詞家についても調べてみる必要がある。

Appendix 1 : 分析に使用した単語リスト (花等の名前)

表19 コーディング (花等の名前)

乗り物	電車、汽車、列車、トレイン、車、自動車、スポーツカー、タクシー、バス、自転車、スクーター、オートバイ、バイク、船、ボート、ヨット、ディンギー、貨物船、客船、飛行機、飛行船、ワーゲン、bicycle
服	セーター、スカート、シャツ、ワイシャツ、Yシャツ、ブラウス、コート、マフラー、ジャケット、スーツ、ドレス、パジャマ、ブルゾン
花	桜、さくら、サクラ、ばら、バラ、薔薇、スイートピー、すみれ、スミレ、バイオレット、ヴァイオレット、ひまわり、向日葵、たんぽぽ、タンポポ、フリージア、シクラメン、チューリップ、オレンジ、みかん、ミカン、あじさい、紫陽花、アジサイ、いちご、イチゴ、苺、strawberry、カトレア、カーネーション、ゆり、ユリ、百合、コスモス、秋桜、シクラメン、ジャスミン、すずらん、スズラン、ツキミソウ、月見草、レンゲ、れんげ、林檎、りんご、リンゴ、檸檬、レモン、パイナップル、キンモクセイ、サボテン、ブルーベリー、blueberry、ハルジオン
体	頭、口、くちびる、顔、耳、目、眼、瞳、頬、髪、肩、腕、手、足、指、指先、爪
色	白、白い、黒、黒い、赤、赤い、紅い、青、蒼、蒼い、青い、黄色、黄色い、紫、パープル、緑、金色、銀色、茶色、茶色い、グレー、グレイ、灰色、ピンク、オレンジ色、ブルー、茜色、ベージュ

Appendix 2 : カイ2乗検定

KHCoderのコーディング分析で行われているカイ2乗検定の詳細については、樋口耕一(2014)等に記述されていないため、ここに記しておく。

例えば表11の作詞家による比較：情景・心情では、自然など5項目について検定を行っているが、これは5項目すべてをまとめて分割表としているのではなく、各列を単独のデータとして検定している。「自然」を例にあげて説明する。

表20 「自然」についてのカイ2乗検定

	*自然		
	使用	非使用	合計
阿久悠	19	24	43
松本隆	47	10	57
秋元康	47	18	65
合計	113	52	165

値を度数で表すと表20のようになる。ここで「非使用」はデータ数から「使用」の値を引いた値である。これを3×2の分割表とみなして通常のカイ2乗検定を行う。例えば1行1列の阿久悠の使用であれば理論値は

$$\frac{43 \times 113}{165} = 29.44848$$

であるからこの部分のカイ2乗値は

$$\frac{(19 - 29.44848)^2}{29.44848} = 3.707$$

となる。合計欄以外の6つのセルすべてについて同様の計算をし、合計するとカイ2乗値17.358が得られる。この表における自由度は $(3 - 1)(2 - 1) = 2$ である。

参考文献

- [1] 池澤和希・浦谷則好 (2015) 「作詞家の歌詞の計量テキスト分析と年代推定」、情報処理学会第77回全国大会講演論文集, 2015(1), 191-192
- [2] 伊藤雅光 (1997) 「表記からみた松任谷由実の歌詞 (3): 歌詞とはなにか」日本語学、Vol.16, No.2, P79-87
- [3] 伊藤雅光 (1997) 「表記からみた松任谷由実の歌詞 (4): 歌詞とはなにか」日本語学、Vol.16, No.3, P78-87
- [4] 伊藤雅光 (2001) 「ユーミンの言語学 (41): ユーミンソングの基本語彙」日本語学、Vol.16, No.3, P78-87
- [5] 伊藤雅光 (2002) 「計量言語学入門」大修館書店
- [6] 伊藤雅光 (2017) 「Jポップの日本語研究—創作型人工知能のために」朝倉書店
- [7] 大出彩・松本文子・金子貴昭 (2013) 「流行歌から見る歌詞の年代別変化」じんもんこん2013論文集, 2013(4), 103-110
- [8] 大川俊昭・高護 (1986) 「定本 はっぴいえんど」SFC音楽出版株式会社
- [9] 富永愛 (2015) 「いきものがかり・水野良樹と山下穂尊の歌詞に関する文体的特徴分析」日本文学111巻、p235-252
- [10] 樋口耕一 (2014) 「社会調査のための計量テキスト分析」ナカニシヤ出版
- [11] 細谷舞・鈴木崇史 (2010) 「女性シンガーソングライターの歌詞の探索的分析」、じんもんこん2010論文集, 2010(15), 195-202
- [12] 歌ネット (<https://www.uta-net.com/>)

